

秋さけ



定置漁業



真盛り

NOBORIBETSU

広報
のびのび

'92 **10.1**
No.504

■ 人口/57,013 ■ 世帯/20,367 (前月比=人口+10・世帯+10) 平成4年8月末現在

特集◆登別方式

ごみリサイクルシステム

もう始めています。 これから導入します。

登別市は、年々増え続けるごみに対処するため、今年四月から「登別方式資源リサイクルシステム」をスタートさせました。

今回は、この「登別方式」をすでに実施している町内会と、これから導入しようとしている町内会を取材し、現在の状況や、これからの方向等について紹介します。

ごみに対する住民の意識は高い

廃品回収は十二年も前からやっていますが、第二種の雑びん、空きカンなどは現在、公園に設置したドラム缶に各家庭が持つて行っています。ただ空きカンは二つのドラム缶では足りないのです、もう二つ増やしてもらいました。月一回の回収では間に合いません。住民のごみに対する意識は高まっていますね。「芙蓉の家」から出すごみと家庭のごみの出し方に、モデル的な良い面がありますね。分別がしっかりしていますし、カ

ラスや犬猫にやられないような自衛策を各自がやってくれます。結局、個人のモラルの問題ですからね。

会 町 登
本 野
野 澤



第一種の廃品回収は月一回、第一日曜日に体の空いている役員が進んでやっていますが、十五分位前にマイクで知らせるんです。それから回収するんですが、役員の苦勞もさることながら、住民側から「ご苦勞様」、役員側からも「ありがとう」。こんなコミュニティションが良い結果を産んでいますね。主力は古紙ですが、年間十二、三万円ほどになります。これは町会費に入れて新年会、子供みこしなどの飲食費に使っています。

始めはお金に換える、という気持ち先立っていました。最近環境を良くする考えに意識が変わってきていますね。単価は安く

なっていますが、環境問題が話題になり出してから少しづつ視野を広げて見るようになったんですね。まあ、方法はいろいろあるでしょうが、各々のやり方でいいのではないのでしょうか。

とにかく今は、登別方式でやっている訳ですが、これから取り組もうとしている町内会にアドバイザーするとすれば、やはり町内会長の陣頭指揮ですね。会長自ら頑張っている、毎年毎年会長は大変だ、という人が必ず出てきます。初めは手伝う人がいなくても、毎月続けていると、一人、二人と増えてくるんです。

国道沿いの人家の無い所に、ドライパーがごみを捨てていきますが、私達は気が付いた人が拾って歩いていきます。町内にあるバス停の待ち合室も何年も清掃を行っているものですから、バス会社から感謝状をもらいました。また、公園の清掃は、市からいただいた手当を老人クラブの費用に使ってくださるということでした。老

人クラブの方々が天気の良い日に、草刈り、ごみ清掃などをしてくれています。

まあ、市にお願いしたいことはたくさんありますが、市が大変なことも重んじ分かっていきますから、そうむやみにあれこれしてくれとは言えませんし、やはり町会の役員がそれなりに考えて、できることは自分達でやらなければ良くはならないと思いますね。

私たちの町内会は二百五十戸位だったんですが、今度、時代村の独身寮から七十戸入ってくれたんです。なかなかアパート住まいの独身者が入ってくれないんですが、この社長さんがこの土地で事業するからには地域の人々と仲良くしなければ、という考えなんです。本当にそう思いますね。

完全に登別方式でやっています

私たちの町内会は、昭和四十七年から廃品回収に取り組んできましたが、今年の初め「全国アルミ缶リサイクル協会」より表彰されたいです。登別では初めてということでも新聞にも紹介されましたが、お陰で記念の五万円を利用してお陰で念願だった物置を「婦人研修の家」の横に設置することができました。ごみの回収は、今は完全に登別方式でやっていますが、最初は町内会の役員がリヤカーを引きなが



ら各家庭を回っていたんです。しかし、いつまでも役員だけでやるもんじゃない、そう思い私が会長になった頃からごみステーションを設けたんです。それが今、実っていると思いますね。登別方式になってから、私たちの町内会は第三週の水曜日をこみの回収日とし、平日九時までということ、かなり楽になりましたね。



新川第2町内会
永田さん

まず、前の晩に八つのステーションに市から配布された「資源ゴミステーション」と書いた緑の旗を立てるんです。そして当日の朝七時半からハンドマイクで促すんです。月初めに、日時を入れた回覧を各区長さんが回してくれませんが、それでも忘れる人もいますからね。日曜日に回収していた頃もハンドマイクで呼びかけていたんですが、せめてこの一年間は定着するまで続けようと思っているんです。

それから、交通監視員を各ステーションに一人付けてもらっています。事故があったら困りますから。第二種回収資源は、さつき言った物置に金属類。市が用意した下

ラム缶に雑びん、空きカンということになっていきます。ただ、空きカンが多く、ドラム缶に入りきらなくて物置にもたくさん集まっていますね。

登別方式では一か所ということをやっていますが、今、様子を見ているんですよ。

このシステムを浸透させる意味でも、詳しく書いたプリントを三百二十戸全戸に配布してあります。ステーションの位置を示した地図を入れたり、第一種の回収するものを具体的に書いたたり、一年間の回収日などですね。これを自宅の見やすい場所に張ってもらったら忘れないと思いますよ。

まあ、一人、二人と少しづつ増えていってくれたらいいんです。私達の町内会はお祭りでも寄付を取らずに、この廃品回収の益金で賄ってきたんですが、金額だけが問題ではなく、環境の整備という意識が大事ですからね。

この度、STVラジオから私達を取り組んできた活動内容を話してくれときています。永年培ってきたことがこうして取り上げられるのは嬉しいですね。

九月二十七日にも洞爺で北海道ブロック大会があるんですが、登別では私の町内会が代表してごみについて事例発表してくれ、と名指しされたんですよ。

少しでも登別のPRになればと思いますし、登別市内の他の町内会もどんどん取り組んでいってくだらいいですね。

十月からスタートします

廃品回収は子供会、婦人部などで十年以上前から取り組んでましたが、登婦連の「ごみ処理問題研究会」に出席して、登別方式とかいろいろ話を聞いたのをきっかけに皆で検討してみました。

結局、目的はお金ではなくリサイクルすることですから、今まで通り婦人部は月一回、子供会は年二回と各々続けていって、どちらに出しても構わない。ただ今まで子供会が回収する月は婦人部が休んでいましたが、今後は休まないで決めました。一回休むと次の月の集まりが悪くなるんです。

第一種回収資源は、業者と相談

片倉町内会
今田さん



し、今まで通りでいいことになり、金属類とか空きカンなど第二種回収資源は、町内会全体で取り組んでゆこうと、ドラム缶を市に申し込んでいるのですが、まだできて

こないんです。九月からのスタート予定が間に合わなくて十月からということになりました。

話し合いは昼夜二回に分けて行い、設置場所も決まっています。ただ、四百戸近くもあるんですから、一か所じゃ足りないんじゃないかと、町内会長さんに交渉していただいて四か所に設置することになりました。その内の一か所はお隣の西団地の方々と共用で使うということ、了承済みなんです。

きつと集め出したらいろいろな問題が起きてくるんじゃないでしょうか。ただ、遠い所に皆が持つていくかということが心配ですね。登別方式、大変いいんですけどね、月一回の回収ではおそろく間に合わないということが分ると思うんです。今はリサイクル協会の好意におんぶしている状態です。

それと町内会や婦人部に働きかけるのもいいですけどね、家に居てごみにたずさわるのは皆お年寄りの方々なんですよね。ですから老人クラブなどに働きかけて、そういう力を借りるといいと思います。先日の消費者大会でもお年寄りが分別している所はとでもきれいだって言っていましたね。

分別と言えば、私たちの町会で徹底してやったことがあるんですよ。もう十年位前になりましたが、片倉町の分別が悪いと言われて婦

特集 ◆ 登別方式ごみリサイクルシステム

特集◆登別方式ごみリサイクルシステム
もう始めています。これから導入します。

人部で何人が焼却炉を見に行っただんです。そして片倉町のごみが出てくる時とか、運んでいるのを実際に見て勉強して、皆ごみに名前を付けて出したんです。そして燃やせるごみの日にカランカラン音がする袋はその家に戻すんです。皆とても分別が上手になりました。今ではかなり徹底していると思いますが、これからももっと皆の意識を高めていきたいですね。

出さない工夫も大切

この登別方式になってから、鉄くず、雑びんなど第二種回収は、市からドラム缶七本を公園の脇に据えてもらい常時出せます。しかし、雑びんは一か月持ちますが、空きカンと金属くずは月一回の回収では間に合いません。半月位でいっぱいになり外に置いている状態です。その都度市に対応してもらっていますが、といって何十本も公園にドラム缶を置く訳にもいきませんし、せめて月二、三回は回収して欲しいと思いますね。

内会町丘ケ草若野口さん



第一種は従来通り、毎月三十日に戸口まで出してもらい、ポラン

ティアの人達十人位が集めて歩き、九時に業者の方に渡します。どうしても役員が主体になります。

それから三十日に決めてはいますが、日曜日や年末、期末は少し早目にします。その時は今月は何日ですと回覧を回します。

私達の町内会では毎月回収実績を報告しますが、引き取り単価が下がっているのに実績は毎年上がっているんです。一か月、一世帯平均で見ますと、平成二年度は五十五円四十二銭、三年度は六十円三十五銭、四年度は八月までで七十四円八十銭となっています。ですから意識はかなり高くなっていると思います。それだけごみは減っているはずですね。

おもしろいデータがありますよ。今年の四月から一升びんの価格が下がったんです。それまでは一升びんが結構出ていましたが、そういう情報っていうのは早いんですね。翌月五月は三分の一に減りました。それで話し合いをして、お金が目的じゃないんだよと。また六月から元に戻ったんですが、リサイクルの目的をはっきりさせることが大切ですね。

限りある資源ですから、永い年月を費してできたものを私たちが使いきってしまうのは問題だよ、

と機会あることに話し合ってきたんですが、これは消費者だけが頑張ってもだめで、行政がある程度指導し、業者もその気になってもらわないとうまくいかないと思います。このリサイクルのシステムが定着するまで、行政がその辺をコントロールして欲しいですね。

それと、出さない工夫も大切です。スーパリーのトレイとか、ペットボトルとか、皆さん困っていると思うんです。ただ、これは難しい問題ですね。自由経済と省資源のどこに接点を見つけるか、ということになる訳ですが……。今、私達の町内会は役員の若返りを考えているんです。皆でやっという、積極的に参加しようという雰囲気をつくっていかなければならぬと思っています。

班ごとの当番制が功を奏す

登別方式を取り入れてはいますが、第一種回収日は十年來続けている第三日曜日を变えないでやっています。普段の日ですと人手が足りないですから。

当初の目的は財源確保で廃品回収を始めたんですが、今年からは一般会計に入れないで別枠にすることにしました。単価が下がってきていますが、皆さんの協力で

月二万円前後はキープしてあります。それは昨年から一か月ごとに班単位で交替してやっていることが大きな要因だと思います。今、百七十戸、十五班あるんですが、以前は役員さんが主に苦勞してやっていたんです。しかし、班ごとの当番制にしましたら、今まで廃品回収を見ていなかった人が「これもいいの?」とだんだん分かっていくんですね。中にはトレイレットバーの芯をきちんとつぶし



内会町葉松若山さん

てひもで結んで出してくれる人もいますから、いい見本だということで見せるんです。

かなり分別の意識が高まっていると思います。逆に燃やせないごみが増えているんですよ。トレイ等が多いですね。

空きカンや雑びんなど第二種回収は以前業者さんが大きな入れ物を置いていって、そこに我々はトラックを借りて集めて歩きました。この春から雑びんを持っていなくなりました。それで環境衛生課に頼んで九月からドラム缶を二か所に置いてもらいました



が、本当は二か所でも足りません。我々の町内会は広範囲ですから。

まあ、遠い人もできるだけドラム缶に持って行ってください、とお願ひしてはいるんですが、何となくも少し多くして欲しいと思ひますね。置く場所についても町内会で地主の方にお願ひしたり、努力しなければと思ひています。

まあいろいろありますが、目的は財源確保なんです。それが結果的にごみの減量につながれば、そんなにいいことはないですね。

今年若葉町内会が発足してちょうど十周年なんです。十月二十五日に式典と祝賀会を予定していますが、特にごみの減量化と環境衛生に功績のあった人に感謝状を贈ろうと話合っています。

毎月三千円の子算で廃品回収の後にご苦勞様と飲み物を出していますが、そのきっかけは、「私は何もできないから」と貯めていたワンカップを皆に出していたおばあちゃんなんです。ちよつとしたことで皆気持ち良くやれますからね。回覧にも「今月の協力者」と名前を書いて毎月出すんです。

「会報」と一緒に「環境部だより」を出すことによって、少しでもごみ減量化の意識が高まればと思ひています。

問題意識を持たなくては

私がここに住むようになったのが昭和五十九年十二月なんです。この市営住宅に入ったとき、同じ住宅に廃品回収業に勤める方がいらっしやいました。その方の後を引き継ぐ形で「ごみ」と取り組むようになったんです。主人も亡くなっていますし、子供もいないものですから町内会活動に参加して、少しでも地域のお役に立ちたいと考えていましたので……。



地 団 西
藤 原 さん

その後、婦人部長を引き受けるようになりましたが、その当時からごみの分別収集はなされています。この町内会の皆さんは、環境問題に真剣に取り組んでいるんだなということを感じました。良い例だと思ひますが、道路に空きカンが落ちてくると気付いた方は必ず拾ってくれますし、町会長も職場からアルミ缶を持って来てくれたりしました。

今年の四月からスタートしたごみリサイクルの「登別方式」ですが、町内会の総会や会議のときなどで話し合ひをしまして、雑ビンの回収用のドラム缶の設置場所も決めてあるんですよ。ただ、この

町内会は、比較的若い方が多く、日中は勤めに行つてしまひますので、廃品回収を行う平日は、人手が足りないというのが悩みなんです。それで「登別方式」のスタートが遅れているんです。

それから第一種回収資源の牛乳パックなんです。これの回収量が少ないような気がします。中を洗つて開き、乾燥させるといふ一連の方法があるんですが、かなり手間がかかりますので。根気も必要だなアと考えさせられました。

平成三年度の廃品回収で得た金額ですが、五万八千円程ありました。このお金は、子供会と婦人部の活動費に充てて、少しでも町会の会計に負担をかけないよう努力しています。

今、地球環境問題が叫ばれていきます。フロリガスや車の排気ガスによる大気汚染、これらの問題は私たち一人ひとりではどうにもなりません。しかし、その個人個人が問題意識を持たないと解決しないのも事実だと思ひます。

私がごみ問題と取り組んで感じたことですが、牛乳パックでも内側がアルミの物があります。それからスーパー等の商品のトレイなど、生産する側でもっと環境問題のことを優先して考えていた方がいいと思ひます。私たち消費者がごみの減量化、資源化にいか

に積極的に取り組んでも限度があります。生産する側と消費する側が一体となって、ごみの減量化、資源化に真剣に取り組む時期が来ていると思ひます。

取材を終えて

今回の取材を通して共通していることは、空きカンを入れるドラム缶が足りないということです。各町内会で事情が違いますから、もっとドラム缶を増やしてほしいという所、回収する回数を多くしてほしいという所様ざまですが、思つた以上に空きカンが各家庭から出ているのを痛感しました。と同時に、それだけ燃やせないごみとして捨てられていたことを思うと、深く考えさせられました。

この登別方式を全町内会に浸透させるには、まだまだ時間がかかると思ひますが、改善しなければならぬ所、とくに第二種回収資源ですが、行政と業者、そして町内会がもっと話し合つて検討することにより、より良いリサイクルが確立していくと思ひます。

また、取材させていただいた各町会長さん、婦人部の方々の努力を惜しまない熱心さに頭が下がる思ひです。ご協力ありがとうございました。

リポーター 中川たみ子

特集 ◆ 登別方式ごみリサイクルシステム

加で生きいきライフ★

人材センターが スタートします!



センターとは

高齢者のもっている経験、技術、能力を地域社会に役立て、その生きがいの充実と、健康で働くことを通じ、社会参加を続けていただくためのものであり、センターが高齢者に適した臨時的、短期的な仕事を確保し、会員に提供する公益的、公共的な団体で、今までの高齢者事業団が発展・充実して生まれたものです。

お電話
お待ちし
ています。

センターの運営

- センターは、公共的な性格を持つ団体で、営利を目的とするものではありません。
- センターの役員は、会員の中から選ばれ、自主的、かつ主体的な運営を行っていきます。
- センターの会員は、住んでいる地域ごとに「地域班」を作り、会員相互の意識の高揚を図ります。
- 引き受けた仕事を会員の希望・能力に応じて提供します。
- センターが引き受けた仕事に対しては、センターが責任を負います。
- 会員に対し、就業に必要な知識・技能についての研修や訓練を行います。
- 仕事中の会員の事故については、センターが傷害保険により処理します。

センターのしくみ

センター
(仕事の請負・委任の総合窓口)

- センターは、高齢者の職業紹介や就職あっせんをするための機関ではありません。センターが仕事を請負、会員がこれに従事するものです。したがって、仕事を発注された方と、仕事に従事する会員の間に、雇用関係はいっさいありません。

仕事の発注
(契約金の支払)

仕事の提供
(配分金の支払(報酬))

発注者

(一般家庭・民間事業所・公共団体)

就業

会員

(おおむね60歳以上)

シンボルマーク

人材センター

☎ 88-0880
FAX 88-0882
登別市労働福祉センター内)

★いつまでも社会参 登別市シルバー 10月1日からス

センターの会員は、こんな仕事をします

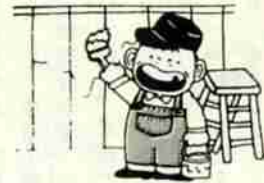
一般事務・経理事務

オフィスでの書類や伝票の整理、集計や調査事務に高齢者の丹念な仕事をします。



工場内の補助作業

工場内での補助作業、雑務に高齢者の経験を生かしませんか。機械の管理、塗装や資材整理など軽易な作業に応じます。



簡単な大工仕事 修理・修繕

大工仕事や修理にはそれなりの技術と経験が必要で、軽易な仕事はなかなか引き受け手がないもの。技術を持った高齢者ならではの丹念な仕事をします。



屋外の軽易な作業 除雪や冬囲い

庭の清掃や除草、芝生の手入れやかたづけ作業など、力仕事を必要としない軽作業をいたします。冬も簡単な除雪や庭木の冬囲いなどの作業にも応じます。

筆記・毛筆・筆耕など

封筒や葉書の宛名書き、毛筆を必要とする証書類などの書きものは、若い方よりもむしろ高齢者に向けた仕事です。



留守番や子守り 家事の補助

ちょっとした外出をしたいとき、信頼できる高齢者なら安心です。また生活の知恵を駆使して家事のお手伝いもします。



※このほか、夜警・守衛・ボイラー・駐車場管理など、シルバー人材センターの会員は、いろいろな仕事の経験者がいますので、センターにご相談ください。

あなたも会員になりませんか。

- 登別市内に住み、おおむね60歳以上で健康なら、どなたでも入会できます。

(女性の方も入会できます。)

- 入会はいつでもできます。

(きめられた入会申込書と会費を出されると会員になれます。)

会員
募集中
です!

※くわしくはセンターにおたずね下さい。

シルバー人材センター

登別市シルバ

(社団法人申請中)

登別市千歳町3丁目1-

Hideo Hagiwara 道内初の企画展

現代木版画の巨匠

萩原英雄の世界

日本を代表する版画家萩原英雄氏（東京在住79才）の来登を機会に、登別市と市教育委員会、登別地域大学では、十月十七日から十九日までの三日間登別市民会館中ホールを会場に「現代木版画の巨匠・萩原英雄の世界」と題して特別企画展を開催します。

この企画展は、道内はもとより東京以北でもはじめての開催となります。個展には、木版画を中心にコラージュ、油彩、バステルなど二百点余りが出品されるほか昭和六十三年ノーベル賞委員会の依頼により制作した川端康成の文学作品をモチーフとした作品五点の初公開など、萩原芸術の全貌が一挙に公開されることとなります。ご期待ください。

萩原画伯は、大正二年甲府市の生まれ。幼い頃、警察署長の父の転勤で北朝鮮に移住しましたが、昭和八年美術の道志し、単身上京。東京美術学校油絵科（現東京芸術大学美術学部）に入学しました。一年の子科を終え、本科では南薫造に師事、同十三年に同校を卒業しました。

美校生時代、反俗の画家として注目されていた長谷川利行を知り、画家としての生き方を考えるうえで大きな影響を受けたと言われています。

すでに擗牛賞を受賞しながらも赤貧と不遇の中で、超俗的とも言える創作活動を

続ける長谷川利行の日常を見つめてきた萩原画伯が、その後、一貫して既成の概念や常識にとらわれることなく、潔癖なまでに木版表現に固執し、その表現の可能性を極めていったことは、多くの批評家が語るどころです。

昭和二十六年 初の個展開催

萩原画伯が、はじめて個展を開いたのは、昭和二十六年、銀座資生堂での油彩展でした。

しかし、このときの個展開催は、戦後の

萩原英雄特別講演会

「浮世絵と現代版画」

10月19日 午後6時30分

市民会館中ホール

入場無料

混乱に加え、債務保証した友人の倒産による莫大な借金の肩替りなど絶望的ともいえる試練の只中での開催でした。

そんな中でも画伯は、作品制作に加え、毎日四時間のデッサンを欠かさなかったと言われています。

萩原画伯が、木版画をはじめて手がけたのは四十歳の時でした。

赤貧の生活の中で肺結核に侵された画伯は、三年余りの入院・闘病生活を余儀なくされますが、この時、木版で年賀状を制作したのがきっかけとなって木版画に転じました。

闘病生活を終えた直後の昭和三十一年、画伯は、銀座・養清堂画廊で第一回目の版画個展を開催し注目を集めます。

以降、木版画という新たなメディアを得て、美術界で縦横の活躍をするようになります。

世界の舞台上で活躍

昭和三十四年、アメリカの「タイム誌」に作品がカラーで掲載されたのを契機として、同三十五年東京国際版画ビエンナーレ展近代美術館賞、同三十六年シアトルで初



◀ 大富士雪化粧富士 (91)



▲三十六富士鯉泳ぐ



萩原英雄画伯

の海外個展、同三十七年ルガノ国際版画ビエンナーレでグランプリを受賞するなど国際的に高い評価を受けました。

この時期画伯は、日本の戦後版画が世界へとばたいていくための突破口を拓く牽引的存在として大きな役割を果たしました。

また画伯は、絶えず木版画というメディアの可能性に挑戦し次々と新たな技法を開拓してきました。

油彩画のようなマチエール(質感)を想わせる「裏面刷り」銅版画と同じ効果の「線」をつくりだす「凹版」の完成などそれまでの木版技法ではどうしても超えることのできなかった枠を次々と超え、木版画に新しい生命と可能性を吹き込んだと言われています。

北斎以降誰もなしえなかった大テーマ

このように萩原画伯は、技法の追求者として木版画の新しい世界を切り拓く一方、壮大な夢にも挑戦してきました。それは、画伯の原風景ともいえる「富士山」への挑戦でした。

画伯の意識の中では、いつも、現実の富士と北斎の「富嶽三十六景」が交錯していたと言われています。画伯は、自らのライフワークとして、二十五年の歳月をかけ昭和六十一年に「三十六景富士」を完成。自己の芸術の総決算ともいえる仕事を成し遂げました。木版画による富士三十六景は、北斎以降誰もなし得なかった大業績と高い評価を得ました。

萩原芸術の全貌を一挙公開

今回の特別企画展では、初期の作品から「三十六富士」全作品、ギリシャ神話シリーズ、現代短歌界の鬼才塚本邦雄氏との共作「イソップ物語」など画伯の主要作品を網羅した展示構成となっています。萩原芸術の全貌を知るまたとない機会となることでしょう。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

詳しくは、企画調整室(☎1122)、社会教育課(☎1100)まで

萩原英雄展に寄せて

道立近代美術館 学芸部 参事 鈴木正實

萩原英雄の作品にはじめて接したのは二十年以上も前で、その時私が抱いていた木版画のイメージは見事にこわされた。簡潔な平面性というイメージは浮世絵版画はもとより、恩地孝四郎や棟方志功など、明治以降の銅版画主流のなかで木版画の近代化をめざした作家にも共通した特質であったといえよう。

ところがどうだろう、萩原英雄はそうした木版画の伝統的な要素を断ち切った地点に突然現われてきた。少なくとも私にはそう感じられた。

彼の作品はもはや紙の上に刷られた形と色ではなく、それ自体がひとつの触感的な物質そのものである。木版画の概念をこえたその画面は、油絵の強靱さ濃密さに通ずるものであり、その豊かな感性とともに他の追随を許さない多様かつ独自の技法には感嘆、敬服するばかりである。それに加えて常に新生面を切り開こうとする努力が、彼をして国際的版画家の地位を確立させたのである。

このたびの展覧会は、まさに現代版画の一頂点に接する得がたい機会である。大都市に集中しがちなこうした大規模の文化事業を実施する登別市の熱意にも、私は拍手をおくりたい。

友達の輪



誰かを助けて生きたい……

井野 まち子さん (38歳)
片倉町在住

看護師ですけども主婦しながらですから、それ一本の人とは職業感が違いますね。個人病院のせいかな、この仕事は技術的なものがすべてじゃないことを痛感させられます。

「先生がもういいって言ったけど看護婦さんの顔見にきたよーっ」て、そういうお年寄りが多いんですよ。だから、あああ、雨降っているのによく来たねえって、ちよっと肩に触れる。そういう暖かみを求めているのね。それに応えるのも大切な仕事なんだなど。こまやかな対応ができるのが個人病院の良いところだと思います。特に一人暮らしや夫婦二人だけのお年寄りには。

私は、母親と一緒の六人家族ですけど、同居して良かったと思うことがいっぱいあります。子供の

心の成長に計り知れない影らみを与えてくれますね。私は自分の親には仕事と別で、つきっきりかたりして主人にしかられています。(笑)

末っ子でわがままなところがあから、友達にも正座してる姿ばかりは見せていられなくてドジ丸出し、さらけ出しちゃう。それで相手がどこまで自分を許してくれているかって。甘えかもしれませんが、下手なやり方ですけど上手な人より安心できるでしよって勝手に決めているの。(笑)

それでもいいって言ってくられるステキな人達にうんと助けられています。そういう人を大切にして、自分も誰かを助けて生きたいです。(リポーター 坂本優穂)

今回は、中央町在住の石高清道さんです。お楽しみに!!

十一万円となるものです。歳出予算の主な内容は次のとおりです。

- 登別市ふるさと大使設置経費、七十七万円
- 登別の紹介や首都圏の情報収集を行うため、首都圏に住む登別ゆかりの人の中から、「登別市ふるさと大使」を新設するための経費。
- 登別市シルバー人材センター補助金・一千六百六十万円
- 十月一日設立の登別市シルバー人材センターへの補助金として。
- 市道舗装排水整備事業費・一億

第3回市議会定例会

一般会計補正予算などを可決

一般会計補正予算の主な内容

平成四年第三回市議会定例会は、九月七日から二十五日まで開かれ、当初議案として選任一件、報告二件、議案二十件が上程されました。

以下、今議会で審議された議案の主な内容についてお知らせします。

平成四年度一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ二億九百五十六万円を追加し、歳入歳出予算額は、それぞれ百七十七億四百五

幌別川周辺は野鳥の宝庫

日本野鳥の会室蘭支部の皆さんが「幌別川野鳥生息マップ」を作成しました。

幌別川は、川底を平らにしたり、護岸工事を進めるなど改良が進められました。このことは、残念ながら飛来する野鳥にとっては不幸なことでした。

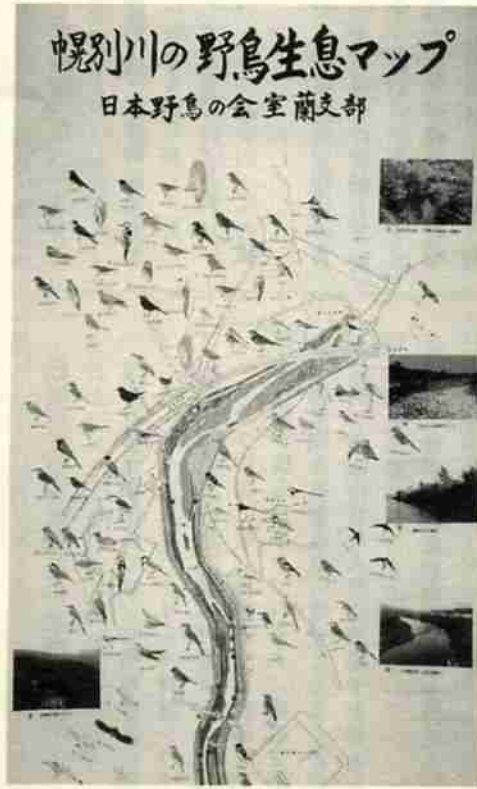
しかし、十年にわたる野鳥の会の皆さんの観察によると、自然の力により川に中洲ができたり、生育する草木は野鳥が営巣しやすい環境を幌別川に作り上げました。また上流には灌木が、幌別ダムの回りに森林があり、一度飛来しなくなった野鳥たちも時折姿を見せるようになりました。

百二十七種もの野鳥が飛来するという幌別川は、市街地を流れる

川としては極めて貴重な自然環境を形成しており、日本野鳥の会室蘭支部は、こうした幌別川の自然環境を市民の皆さんにも理解して欲しいと、この度のマップ作成となりました。今後は、市民の皆さんとの自然観察会なども考えているそうです。

長年の観察結果に基づく「幌別川の野鳥生息マップ」は、ほとんど見かけることなく貴重な種類の鳥も幌別川周辺へ飛来することなどを示しており、教育委員会、このマップの有効な活用方法を検討しています。

ご期待ください。
▽問い合わせ 学校教育課 (☎1100)



幌別川の野鳥生息マップ
日本野鳥の会室蘭支部

二千万円

景気対策として市道の舗装や排水路の整備を行います。

○工事請負契約について

平成四年度緑ヶ丘団地建替(建築主体)工事の請負契約を締結するので、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定により、議会の議決を求めるものです。

▽市道路線の認定について

次の道路を市道として認定したので議会の議決を求めるもので

す。

◎若草百七号線(若草町二丁目三十二番地先)同町同番地先)八十九・三六

◎若草百八号線(若草町二丁目二十四番地二先)同町二丁目二十四番地十九先)百十・三

その他の議案

◎常任委員会の選任について◎麻登別振興公社の第十六期決算及び第十七期事業報告◎平成三年度一般会計継続費精算書の報告◎平成三年度各会計決算の認定◎平成四

年度登別市国民健康保険特別会計

補正予算(第二号)◎平成四年度

登別市公共下水道事業特別会計補

正予算(第一号)◎登別市賞じゅ

つ金及び殉職者特別賞じゅつ金条

例の一部改正◎登別市労働福祉セ

ンター条例の一部改正◎登別市日

雇労働者就職促進助成条例の廃止

◎固定資産評価審査委員会委員の

選任◎教育委員会委員(二名)の

任命◎市道路線の廃止について

審査結果(敬称略)

▽最優秀賞(十名)

愛称「スタディーちゃん」

(STUDY)

勉強するという意味です

・受賞者 松田 彩、長井敦子、

広部咲枝、藤崎里美、榎木里美、

遠藤拓哉、石田倫子(以上西陵中)

斉藤裕子、坂元裕司(以上幌別中)

小谷内里美(温泉中)

▽佳作(三十九名)

愛称「まなぶ」 三十二名

「つとむ」 四名

「のぞみ」 二名

「ピーコロ」 一名

(生涯学習推進室)



登別市生涯学習 マスコットの 愛称が決定しました

「スタディちゃん」 で～す

広報のほりべつ七月一日で生涯学習マスコットの愛称を募集したところ、市民の皆様から六百三十三件の応募をいただきました。

審査は、八月二十日に、審査員六名により慎重に行い、登別市の「人づくり」・「まちづくり」を通して、国際観光レクリエーション都市にふさわしいものをとという視点に重きを置き、次のように決定

いたしました。

これから先、市民の皆様一人ひとりに親しんでいただき、生涯学習の振興に役立つことを願っています。

なお、入選された方へは、九月十日市民会館において開かれた社会教育委員・公民館運営審議委員の合同会議の冒頭に、教育長から表彰状並びに記念品を贈りました。

す。

健康ひとくち・メモ 40歳すぎたあなたご用心!!

保健衛生課(☎1771)より

今年も二回目の胃がん検診の時期がやってきました。

胃がんは、40才すぎた頃から、急激に増える傾向がみられます。

男女ともに多い胃がんですが、平成三年、登別市の死亡状況をみると、胃がんによる死亡が男性の方に多くみられました。とりわけ、働きざかりの人が病気になる、いろいろな影響が大きいと思われる

胃がんによる特定の症状はありません。従って自分で健康だと思ってもひそかに胃がんが発生しているかもしれない。これをみつけ、あるいは本当に健康であることを確認することが検診の役目なわけです。万一、病気がかかって

もその被害を最少限にとめることです。受けることが面倒だとか、不安だ、毎日が忙しいと時間に追われる人が多いのですが、一度も検診を受けたことのない人ほど胃がんがみつかる可能性が高いといえます。まだ、一回も受けたことのない人は自分のため、家族のために、ぜひ受けておきたいものです。

◆胃がん検診を受けるために:

①事前の申込みが必要

直接、または電話で申込みます。

②検診を受ける準備
検診用問診票(事前に送付)に記入しておく

検診の前夜
夕食は7時頃までに終了

検診日の朝
何も飲食しない

検診の順序
発泡剤を飲む

バリウムを飲む

検診台にのって指示に従い
体の位置を変える

検診終了

検診が終わったら
バリウムは、時によって腸
の中で固まり、便秘で苦し
むことがあります。終わり
次第、水分を多くとり、必
要な時は早めに下剤を飲み
ましょう。

①

②

③

富浦町の前地名「蘭法華」も初めての人には難しい名称である。ランホッケ・ランボウケ・ランボッケ・ランボケなどと読める。

何れも、江戸時代から文献に記録されている地名なので誤りではない。それに今日でも、旧国道にある「蘭法華隧道」や、公的地図に「蘭法華岬」などと生きている。

蘭法華の書き方は、江戸時代はほとんど前記のような仮名書きであるが、たまには「良武保介・寛発気」の当て字も利用されていたようだ。漢字「蘭法華」の使用は明治四年（一八七一）の開拓使公文録にあるので、この頃から使われたのであろう。

さて、読み方は、漢字ばかりで仮名がない。大正八年の二級町村制施行のとき「大字登別村字蘭法華」という仮名ふり公文書をやっと見つけた。これ以前は小字地名でランホッケもあるが「ランボッケ」が圧倒的に多いので、明治九年（一八七六）から五年間設けた蘭法華村の呼称も「蘭法華」と思われる。

さて、語原は勿論アイヌ語地名で「ランボク・ランボッケ、坂下・坂下の所」の意味。蘭法華高台から、富浦町一丁目の通称「七曲り坂」を降った富浦川の周囲にかけて、昔コタンもあったので「坂下の所」の意味から、この地域を総称したのでしよう。但し江戸時代の調査記録では、坂の上の高台一

帯をランホッケなどといい、坂下の方は「モセウシナイ、草を刈りつけている沢」と云っているがこのことは後日にしたい。

この「蘭法華」が「富浦」に変わったのは、昭和九年（一九三四）、大字登別・幌別・登別の三村二百余の小字名を十五字に改正したときで、今日まで約六十年になる。

富浦は、海へ張り出た蘭法華岬から北西に、屏風のようにそそりたつ高台に囲まれ、東は岬が海からの冷たいヤマセ風を、冬は北西の寒風を遮る温かな場所である。

それに、岬の崖下岩礁には、海藻・魚介類が良く育ち、海底の砂中はホッキ貝などの宝庫であった。町名の由来も「岬が東に大きく突き出て入江となり、陸地に湾入した漁業の豊かな町」ということで「富浦」と命名された。噴火湾岸の「豊浦」と同意義である。

現在も、漁船は登別漁港に停泊しているものの、多くの住民達は漁業・水産加工に従事し、登別漁業協同組合もあって「富浦」の名が示す水産の町として栄えている。蘭法華高台は「リフルカ、高い

丘・上」といわれる広く美しい台地。海の幸の豊漁を折り、海難を避ける祭り場があり、全道・全国的にも貴重な「アファンルバル」という長径約三十センチの堅穴がある。これは金成マツ嶋の語る「あの世の入口」という伝説の場所であるが、その他に、地獄・極楽へ行く穴なので亡者がここから出て、磯場から昆布や海胆（ウニ）などを取り、アファンルバルへ戻っていくという話し。オカシベツ川（幌別町・幸町間）を境に「ランボッケ」とワシベツのどちらかに、ウニが「いか」と争った話しなど、漁業の町富浦は、漁に関わる伝説が多いのも特色である。

明治三十五年蘭法華生まれの、松浦治太郎さんから伺った話しは、父親寿太郎氏の時代にまでさかのぼる。とにかく魚介類の豊富な所。スケツ・イワシ・サバ・カレイは何時も大漁で、オバケゴといわれる程の大ダコや、カツオ・カジキマグロもとれた。秋イカの時期は海岸で提灯を振ると光に惑わされたのか岸に上がってきた。時化の後にはホッキ貝、冬の小さい波の時は毛ガニ、程よく西風が吹く日はイワシの群が何を誤ったのか岸に上がってきた。大漁統きも需要が少ないので魚柏にするのが最もよい、という勿体ない話しである。



郷土史点描 富浦町を訪ねて 昔の『蘭法華』 宮武紳

※広報9月15日号(6ページ)に掲載しました第28回市民文化プログラム中、和裁作品展覧会の日程は、10月16日の他に10月17日(午前9時から正午)も開催します。

室蘭市

白い帆に風を受けて 日本丸寄港

十月九日(十三日) 大型帆船「日本丸」が、海のロマンを乗せて室蘭港に初めてやって来ます。

には、入江陸上競技場で「むろらんビック」が開催され、収穫祭も行っています。ぜひ、お立ち寄りください。

▽一般公開 十月十日(土)は午前九時から午前十一時、午後一時から午後三時三十分までの二回(十一日(日)は午前九時から午前十一時までの一回)

▽セイルドリル 十月十一日(日)午後一時から午後四時(荒天の場合はドリルを中止し一般公開とします)

▽問い合わせ 室蘭市観光振興室 (☎011-2509)

※日本丸は十月九日午前十時から十月十三日午前十時まで室蘭港中央埠頭に停泊しています。

となりまち ほんと ライン

新鮮な旬の味覚をはじめ、西胆振の特産品を一堂にそろえて即売する「だて物産フェア」を次のとおり開催します。

十回目を迎える今年、伊達

市とふるさと姉妹都市を締結している宮城県亘理町、山元町、柴田町、福島県新地町の特産品即売も行うほか、巨理町名物「はらこ飯」づくりの実演即売会も開催します。さらに、こ来場の方を対象にお楽しみ抽選会も実施しますので、どうぞ多数お越しください。

▽日時 十月二十四日(土)午前十時～午後七時、二十五日(日)午前十時～午後五時

▽会場 伊達市体育館と社会福祉センター(伊達市役所前)

▽問い合わせ 伊達市経済部商工観光課地場産業振興係(☎011-423331・内線354)

わがまちの特産品や 名物が勢ぞろい

第10回だて物産まつり

伊達市

伊達市